

林業専用道現地検討会及び森林・林業施策に関する千葉県担当者との意見交換会を開催

1. 林業専用道の現地検討会について

2月6日（火）に、千葉県夷隅郡大多喜町下大前倉国有林内の上修行掘第一林業専用道において、千葉森林管理事務所主催による林業専用道の現地検討会を開催しました。

この現地検討会は、林業専用道の開設にあたり、地形に追従した線形により極力土地の改変量を抑えることで耐久性の向上・コスト縮減を図った施工例を参加者間で情報共有し、技術の向上に活かしていただくことを目的に行うもので、千葉県職員や関係市町村職員、県内の林業土木事業体、設計コンサルタント会社などが一堂に会しました。

当日は、54名の参加者があり、活発な意見交換が行われました。

はじめに開催にあたって、当所所長より、「森林は今、本格的な利用期を迎えており、森林整備や効率的な木材生産を進めていくためには、丈夫で壊れにくく、低コストによる路網の整備を加速していくことが重要な課題。コスト低減を図った施工例を皆さんに見てもらい、忌憚のない意見をいただきながら、更なる低コスト化に繋げていきたい。」と挨拶がありました。

続いて、関東森林管理局東京事務所や千葉森林管理事務所担当者から、林業専用道整備にあたってのポイントや、既設作業道跡の利用と路盤材入れ替えの際の現地発生材の利用によりコスト縮減を図ったこと、可能な限り木製構造物を設置した旨の説明がありました。

その後、参加者は林業専用道の起点から終点までの線形、木製構造物の設置状況、切土の状況や流末処理方法などについて、説明を受けながら、現地を見学しました。

その際、参加者からは、「林道支障木が発生したにも関わらず丁寧に集積されている。」といった意見や、コンクリート路面工の施工方法、軟弱地盤箇所への現地発生材の利用の考え方、切土法面の保護の必要性などについて、質問がありました。また、「発注者がコンサルタント会社と関わる機会は主に委託設計段階のみとなっていることが多く、若手の土木技術者育成のためにも施工段階において、可能な限り関わり合いを持ちながら工事を進めていくことも必要。」との意見も出されました。

最後に、局担当者から、「土木担当者の視点から見ると施工のしやすさ、コスト縮減ということに重点を置きがちになってしまうが、開設の周辺での森林整備を見据えた森林施策全体を俯瞰することも必要。」との総評があり、終了しました。

千葉森林管理事務所では、今後も効率的な主伐、森林整備を進めるため、今回いただいた意見などを参考にしながら、更なる低コスト化を図りつつ、林業専用道の整備を進めてまいります。



千葉森林管理事務所担当者による説明



参加者による現地見学（木造構造物等）



参加者による現地見学（切土法面箇所）



参加者による意見交換

2. 森林・林業施策に関する千葉県との意見交換会について

2月6日（火）に、千葉県夷隅郡大多喜町の筒森展示林内管理棟において、千葉県関係者との「森林・林業政策に関する意見交換会」を開催しました。

意見交換会には、千葉県森林課及び県内出先機関の担当者7名、千葉県農林研究センター森林研究所研究員2名、関東森林管理局及び千葉森林管理事務所の担当者11名の計22名が参加しました。

意見交換会は、県内における民有林・国有林に共通した課題を予め整理し、そのテーマに沿って行いました。主なテーマ及び意見交換の様子は以下のとおりです。



意見交換会の様子①

<カシノナガキクイ虫被害対策について>

千葉県担当者や千葉県森林研究所研究員から、「昨年8月に千葉県内で初めてカシノナガキクイ虫による被害が鴨川市の東大演習林内で確認された。他県の被害木は、ナラやカシが多いのに対し、本県では被害木のほとんどがマテバシイになっているのが特徴。」「発生原因は今のところ不明。現在、採取した虫を国の森林研究・整備機構に持ち込み、遺伝子検査を行うなどして個体の身元を調査中である。」「今後、被害状況等を広範囲に行うためにも、国有林内でトラップを使ったモニタリング調査を実施したく、協力をお願いしたい。」といった報告や要請がありました。

関東森林管理局や千葉森林管理事務所担当者からは、「現在、被害が確認されている鴨川市周辺の勝浦市、鴨川市の国有林では被害が確認されていない。」「トラップを使った調査については、国有林も積極的に協力していきたい。」「カシノナガキクイ虫の被害対策については、県の出先機関と森林管理署が被害情報を共有する仕組みを作り、連携して取り組んでいる事例もある。」などの報告や紹介を行いました。

<スギカミキリ虫被害対策について>

千葉県担当者や千葉県森林研究所研究員から、「平成4年から調査を行っているが、平成27年から28年では、安房地域では被害が落ち着いてきたものの、印旛、千葉市等の市街地でも被害が出ており、北総地域に移動している。」「国有林の分収造林地を使って、被害木を搬出したり、被害木の剥皮作業による周辺への被害軽減効果を調査してきた。」「被害木を間伐しているが、被害木を見分けるための選木が難しい。」といった報告がありました。

関東森林管理局や千葉森林管理事務所担当者からは、「千葉森林管理事務所管内では、予防対策として、鬼泪山周辺においてカミキリホイホイ等を設置している。」「被害木の選木にあたっては、特にヒノキなどは被害を受けるとヤニが出て皮が固くなっていることが多いため、そうした点を観察しながら選木している。」などの報告を行いました。

<獣害対策について>

千葉県担当者から、「現在、千葉県では、イノシシによる農作物への被害が深刻となっている。イノシシは耕作放棄地や放置竹林を生息地していると思われ、特に林業の視点でいうと放置竹林対策が急務となっている。」といった報告や意見がありました。

千葉森林管理事務所担当者からは、「千葉森林管理事務所管内では直接的な竹林整備は行っていないが、主伐箇所周辺で竹が侵入している林分がある場合は、竹の侵入区域を伐採し、補植を行うことにより、複層林や針広混交林へ誘導するような整備を考えている。」また「シカ被害対策については、被害が多い勝浦市、大多喜町の国有林において、平成30年度にシカ柵の設置を行うとともに、シカの生息数等のモニタリング調査を行う予定である。」などの報告を行いました。



意見交換会の様子②

千葉森林管理事務所では、今後もこのような意見交換を積極的に行いながら、民国連携の取組を進めていきたいと考えています。